



Dream Link Entertainment

平成28年6月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕(非連結)

平成28年1月29日
東

上場会社名 株式会社ディー・エル・イー 上場取引所
 コード番号 3686 URL <http://www.dle.jp/>
 代表者(役職名) 代表取締役 (氏名) 椎木 隆太
 問合せ先責任者(役職名) 取締役CFO 兼 経営戦略統括本部長(氏名) 川島 崇 (TEL) 03-3221-3980
 四半期報告書提出予定日 平成28年2月5日 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有
 四半期決算説明会開催の有無 : 有 (機関投資家・アナリスト向け)

(百万円未満切捨て)

1. 平成28年6月期第2四半期の業績(平成27年7月1日～平成27年12月31日)

(1) 経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
28年6月期第2四半期	1,402	66.4	126	24.8	123	12.4	80	16.9
27年6月期第2四半期	842	△13.2	101	△46.7	109	△41.1	69	△72.2
	1株当たり 四半期純利益		潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益					
	円 銭		円 銭					
28年6月期第2四半期	4.84		4.48					
27年6月期第2四半期	4.20		3.82					

(2) 財政状態

	総資産		純資産		自己資本比率	
	百万円	%	百万円	%		
28年6月期第2四半期	3,442		1,732		50.3	
27年6月期	3,031		1,637		54.0	

(参考) 自己資本 28年6月期第2四半期 1,732百万円 27年6月期 1,637百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
27年6月期	—	0.00	—	0.00	0.00
28年6月期	—	0.00	—	—	—
28年6月期(予想)	—	—	—	0.00	0.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成28年6月期の業績予想(平成27年7月1日～平成28年6月30日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭	
通期	2,919	44.6	233	△29.6	208	△38.3	139	△36.5	8.38	

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

- (1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
 - ② ①以外の会計方針の変更 : 無
 - ③ 会計上の見積りの変更 : 無
 - ④ 修正再表示 : 無

(3) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	28年6月期2Q	16,768,200株	27年6月期	16,525,800株
② 期末自己株式数	28年6月期2Q	—株	27年6月期	—株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	28年6月期2Q	16,718,286株	27年6月期2Q	16,496,416株

※ 四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビューの対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期財務諸表のレビュー手続は終了していません。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績予想等の将来に関する記述につきましては、現時点で入手可能な情報に基づき当社において判断したものであります。予想には様々な不確定要素が内在しており、実際の業績はこれらの予想数値と異なる場合がございますので、この業績予想に全面的に依拠しての投資等の判断を行うことは差し控えてくださいますようお願い申し上げます。なお、上記予想に関する事項は添付資料3ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報（3）業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご参照ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. サマリー情報(注記事項)に関する事項	3
(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	3
(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	3
3. 四半期財務諸表	4
(1) 四半期貸借対照表	4
(2) 四半期損益計算書	5
(3) 四半期キャッシュ・フロー計算書	6
(4) 四半期財務諸表に関する注記事項	7
(継続企業の前提に関する注記)	7
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	7
(セグメント情報等)	7

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第2四半期累計期間におけるわが国経済は、底堅さのみられる個人消費に加え、輸出・生産の持ち直しにより企業部門に改善の兆しがみられるなど、緩やかな回復傾向が続いております。一方、米国の金融緩和策縮小による影響、欧州や中国をはじめとする新興国経済の先行きに対する懸念等、海外景気の下振れリスクとなっております。

当社を取り巻く環境においては、スマートフォンやタブレットPCなどのスマートデバイスの普及が世界規模で急速に拡大し、それに伴い、SNS（ソーシャル・ネットワークキング・サービス）、動画配信サイト、ソーシャルゲーム、コミュニケーションアプリなどの新たなサービスの利用も引き続き拡大しております。

そのような環境変化は、人々のライフスタイルを、スマートデバイス等を使い、最適メディアを選択し、必要に応じて必要な時間だけコンテンツを消費し、SNS等を使って、即時に情報や感動を共有するといった、メディア接触方法の多様化、コンテンツ視聴の短時間化、情報共有のリアルタイム化へと世界規模で変化させ、「スキマ時間に楽しめるショートコンテンツ」といった新たな付加価値へのニーズを急速に拡大させてきました。

そして、インターネット動画配信等の新興メディアの興隆で競争が激化するメディア業界においては、オリジナルコンテンツによる差別化の重要性が増してきております。

このような事業環境の中、当社では、視聴者や消費者等の多様化し変化の早い嗜好や価値観、旬な時事ネタ等を捉え、適時に対応することを強みとする、ファスト・エンタテインメント事業を展開し、インターネット時代にマッチしたオリジナルコンテンツを量産してまいりました。また、オリジナルコンテンツの多様化の一環として、新たに実写映画プロデュースへの取り組みを開始いたしました。

また、前事業年度に取得した「TOKYO GIRLS COLLECTION」の商標権を積極的に展開し、ファッション・ビューティーに関する情報の発信源として 日本のガールズカルチャーを世界に発信する取り組みをしてまいりました。

ソーシャル・コミュニケーション領域においては、IP（Intellectual Property：主にキャラクター等の著作権や商標権等の知的財産権）を開発・取得し、動画広告等のマーケティングサービス提供及びスマートフォン向けゲームアプリやメッセージングアプリ向けスタンプ等のデジタルコンテンツの企画開発・配信を行っております。

当第2四半期累計期間においては、IPの露出先の拡大や展開手法の多様化による、IP価値の成長に連動し、各サービスが順調に推移いたしました。特に「秘密結社 鷹の爪」においては、日本初のエンターテインメント型攻城戦ツアーとして国宝「松江城」を使った戦国時代の城攻めをリアルに体感できる「鷹の爪団のSHIROZEME」といったリアルイベントや、人気月刊マンガ雑誌でのマンガ連載開始など、従来のアニメーションから展開領域を拡大いたしました。また、「パンパカパンツ」においては、初のナショナルクライアントへの全国プロモーションサービスの提供、劇場公開作品の全国69館での上映、大手ショッピングモールへの販路拡大など展開領域を全国へと拡大いたしました。そして、「TOKYO GIRLS COLLECTION」においては、人気SNS上の公式動画配信サービスでの視聴者数が約100万人を達成するなど、当社保有IPの価値向上に取り組みました。また、中国女性向けファッション専業EC最大手のHifashion Group Inc.と業務提携をし、越境EC事業等による中国市場への展開を開始いたしました。

IPクリエイション領域においては、IPの新規開発及び映画・TV・ネットメディア等の映像コンテンツの企画開発・制作及び総合的なプロデュースを展開しております。

当第2四半期累計期間においては、各IPのTVシリーズ・WEBシリーズの継続により認知度向上及び世界観醸成に努めました。特に「秘密結社 鷹の爪」においては人気SNS事業者が運営するライブ配信プラットフォームにて、サービス公開時唯一のアニメコンテンツとして動画配信を開始、「パンパカパンツ」においては、初のテレビアニメシリーズの全国放送を開始するなど順調に推移いたしました。また、「珍遊記」などの実写映画プロデュースを新たに開始するなど、コンテンツの多様化にも取り組みました。

以上の結果、当第2四半期累計期間における売上高は1,402,602千円（前年同四半期比66.4%増）、経常利益は123,314千円（前年同四半期比12.4%増）、四半期純利益は80,916千円（前年同四半期比16.9%増）となっております。

なお、当社は、ファスト・エンタテインメント事業の単一セグメントであるため、セグメントごとの記載はしておりません。

(2) 財政状態に関する説明

①資産、負債及び純資産の状況

(資産)

当第2四半期会計期間末における資産合計は、前事業年度末と比較して410,692千円増加し、3,442,684千円となりました。これは受取手形及び売掛金62,241千円及び商標権37,918千円の減少があったものの、現金及び預金43,890千円、仕掛品128,905千円及び投資その他の資産のうち、出資金240,248千円の増加を主要因とするものであります。

(負債)

当第2四半期会計期間末における負債合計は、前事業年度末と比較して315,357千円増加し、1,709,984千円となりました。これは前事業年度に取得した「TOKYO GIRLS COLLECTION」の商標権等の支払により流動負債のその他524,775千円の減少があったものの、当該商標取得に伴う1年内返済予定の長期借入金170,290千円、長期借入金634,927千円の増加を主要因とするものであります。

(純資産)

当第2四半期会計期間末における純資産合計額は、前事業年度末と比較して95,334千円増加し1,732,699千円となりました。これは四半期純利益80,916千円の計上、新株発行に伴う資本金及び資本剰余金の増加14,100千円及び新株予約権の増加318千円を主要因とするものであります。

②キャッシュ・フローの状況

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

当第2四半期累計期間における営業活動による資金の増加は、33,873千円（前年同期は114,495千円の減少）となりました。これは主に、たな卸資産140,242千円、出資金240,248千円の増加及び法人税等の支払64,208千円があったものの、税引前四半期純利益123,314千円の計上、売上債権の減少62,241千円及び仕入債務の増加57,282千円等の要因によるものであります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

当第2四半期累計期間における投資活動による資金の減少は、808,050千円（前年同期は75,721千円の減少）となりました。これは主に、無形固定資産の取得による支出753,752千円及び関係会社株式の取得による支出52,660千円等によるものであります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

当第2四半期累計期間における財務活動による資金の増加は、818,935千円（前年同期は67,257千円の減少）となりました。これは主に株式の発行による収入13,399千円、長期借入による収入850,000千円及び長期借入金の返済による支出44,783千円によるものであります。

(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明

平成28年6月期の業績予想につきましては、概ね当初の見込みどおりに推移しており、平成27年11月13日に公表しました業績予想に変更はございません。

2. サマリー情報(注記事項)に関する事項

(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

該当事項はありません。

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

該当事項はありません。

3. 四半期財務諸表

(1) 四半期貸借対照表

(単位：千円)

	前事業年度 (平成27年6月30日)	当第2四半期会計期間 (平成27年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	548,155	592,046
受取手形及び売掛金	960,809	898,567
商品	20,139	31,476
仕掛品	143,585	272,491
その他	141,424	149,399
流動資産合計	1,814,114	1,943,982
固定資産		
有形固定資産	12,806	30,642
無形固定資産		
商標権	752,044	714,126
その他	21,692	28,841
無形固定資産合計	773,736	742,968
投資その他の資産		
出資金	315,309	555,558
その他	116,023	169,532
投資その他の資産合計	431,333	725,090
固定資産合計	1,217,876	1,498,701
資産合計	3,031,991	3,442,684
負債の部		
流動負債		
買掛金	266,108	323,390
1年内返済予定の長期借入金	44,328	214,618
未払法人税等	67,684	45,318
その他	977,999	453,224
流動負債合計	1,356,121	1,036,551
固定負債		
長期借入金	38,506	673,433
固定負債合計	38,506	673,433
負債合計	1,394,627	1,709,984
純資産の部		
株主資本		
資本金	743,485	750,625
資本剰余金	520,985	527,945
利益剰余金	372,894	453,810
株主資本合計	1,637,364	1,732,380
新株予約権	—	318
純資産合計	1,637,364	1,732,699
負債純資産合計	3,031,991	3,442,684

(2) 四半期損益計算書

第2四半期累計期間

(単位：千円)

	前第2四半期累計期間 (自平成26年7月1日 至平成26年12月31日)	当第2四半期累計期間 (自平成27年7月1日 至平成27年12月31日)
売上高	842,947	1,402,602
売上原価	416,946	911,409
売上総利益	426,001	491,193
販売費及び一般管理費	324,819	364,948
営業利益	101,182	126,244
営業外収益		
受取利息	84	56
為替差益	9,819	—
その他	21	365
営業外収益合計	9,925	421
営業外費用		
支払利息	722	1,687
為替差損	—	963
株式交付費	659	700
営業外費用合計	1,381	3,351
経常利益	109,726	123,314
税引前四半期純利益	109,726	123,314
法人税、住民税及び事業税	9,262	40,762
法人税等調整額	31,243	1,635
法人税等合計	40,505	42,398
四半期純利益	69,220	80,916

(3) 四半期キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	前第2四半期累計期間 (自平成26年7月1日 至平成26年12月31日)	当第2四半期累計期間 (自平成27年7月1日 至平成27年12月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税引前四半期純利益	109,726	123,314
減価償却費	3,470	48,861
受取利息	△84	△56
支払利息	722	1,687
為替差損益(△は益)	△8,843	867
売上債権の増減額(△は増加)	△247,576	62,241
たな卸資産の増減額(△は増加)	△13,734	△140,242
出資金の増減額(△は増加)	67,346	△240,248
仕入債務の増減額(△は減少)	16,511	57,282
その他	△20,806	186,004
小計	△93,270	99,711
利息及び配当金の受取額	84	56
利息の支払額	△663	△1,685
法人税等の支払額	△20,646	△64,208
営業活動によるキャッシュ・フロー	△114,495	33,873
投資活動によるキャッシュ・フロー		
投資有価証券の取得による支出	△65,500	—
関係会社株式の取得による支出	—	△52,660
有形固定資産の取得による支出	△1,620	△788
無形固定資産の取得による支出	△8,780	△753,752
敷金及び保証金の差入による支出	—	△849
敷金及び保証金の回収による収入	180	—
投資活動によるキャッシュ・フロー	△75,721	△808,050
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額(△は減少)	△30,000	—
長期借入れによる収入	—	850,000
長期借入金の返済による支出	△39,598	△44,783
株式の発行による収入	2,340	13,399
新株予約権の発行による収入	—	318
財務活動によるキャッシュ・フロー	△67,257	818,935
現金及び現金同等物に係る換算差額	8,843	△867
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△248,630	43,890
現金及び現金同等物の期首残高	1,063,779	548,155
現金及び現金同等物の四半期末残高	815,149	592,046

(4) 四半期財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

当社は、ファスト・エンタテインメント事業の単一セグメントのため、記載を省略しております。